

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	0 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
中項目	
小項目	0.0.1 建学の精神・教育理念が確立していること。
要素	建学の精神が確立し明確に示されているか。 教育理念が確立し明確に示されているか。
小項目	0.0.2 教育目的・教育目標が明確であり点検の努力がみられること。
要素	教育目的もしくは教育目標が全学的に示されているか。 教育目的もしくは教育目標は定期的に点検されているか。 教育目的もしくは教育目標はどのような手続きで点検されているか。
小項目	0.0.3 教育目的・教育目標が共通に理解される努力がみられること。
要素	教育目的や教育目標を全学的に学生や教職員が共有するために具体的な施策を行っているか。 日頃から教育目的や教育目標を実現し共有するための具体的な施策について理事会や教授会で議論しているか。

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 建学の精神および教育理念を関西学院のミッションステートメントのなかで再確認し、記載方法、内容を再検討し、本学の教育・研究等あらゆる活動の指標とする。	→建学の精神、教育理念の記載方法および内容の再検討の進捗状況。	D	C	A	A	/
2. 学生、教職員対象のオリエンテーション、学校礼拝、研修プログラム等をとおして、本学のミッション、建学の精神、歴史を学内で共有する。また大学案内パンフレット、教育懇談会、実習協議会、入試説明会等をとおして、学外への周知を図る。	→オリエンテーション、学校礼拝、研修プログラム、教育懇談会、実習協議会、入試説明会の実施状況。大学案内パンフレットの記載内容の検討の進捗状況。	C	B	B	A	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	建学の精神、教育理念および目指す人間像、短期大学像等が定着するように、要覧やホームページなどの記載方法を確認した。
目標2	オリエンテーション、学校礼拝、保護者対象教育懇談会、実習先との実習協議会、入試説明会などの機会を通して、建学の精神・教育理念などを周知するように取り組んでいる。そのために要覧・履修の手引き・大学案内パンフレット等に、建学の精神・歴史等を記載している。2013年度からは、非常勤講師にもより深く建学の精神等を理解してもらうために、非常勤講師用の「教務手帳」に、教育目標、目指す人間像、短期大学像等を記載し周知に努めている。
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	1 教育の内容
中項目	
小項目	1.0.1 教育課程が体系的に編成されていること
要素	教育課程には建学の精神や教育理念が反映され、またその内容はそれぞれの学科等の教育目的や教育目標に基づいたものであるか。 教育課程には教養教育への取組みがなされているか。 教育課程は短期大学の専門教育として十分な内容を備えているか。 教育課程の主要な科目に専任教員が適切に配置されているか。 それぞれの授業は短期大学にふさわしい内容とレベルを有しているか。 それぞれの授業の単位認定と評価は適切に行われているか。 教育課程改善への意欲は十分か。また教育課程改善への組織的な対応はなされているか。
小項目	1.0.2 教育課程が学生の多様なニーズに応えるものとなっていること
要素	教育課程には免許・資格等の取得への配慮がなされているか。 教育課程の授業形態（講義、演習、実験・実習等）はバランスがとれているか。 教育課程は必修と選択のバランスが適切であり、また選択科目は学生に選択の自由を保障しているか。 それぞれの授業内容に応じたクラス規模は適当であるか。 卒業要件は適切であり、その要件は学生に理解しやすい表現となっているか。 それぞれの授業について学生は意欲を持って履修できるように工夫しているか。
小項目	1.0.3 授業内容、教育方法及び評価方法が学生に明らかにされていること
要素	シラバスあるいは講義要項等が作成され、事前に学生に配付されているか。また学生は活用しているか。 シラバスあるいは講義要項等は授業の概要を示す十分な内容を有しているか。また学生に理解しやすい表現になっているか。 それぞれの授業には教科書、参考書等が用意され、また参考文献等が示されているか。
小項目	1.0.4 授業内容、教育方法に改善への努力がみられること
要素	学生による授業評価が定期的に行われ、その評価結果が授業改善のために活用されているか。 短期大学全体の授業改善（FD活動等）への取組みは活発か。また授業改善のための組織等が設置され活発に活動しているか。 それぞれの授業の担当教員は授業改善への意欲を持っているか。 授業担当者間での意思の疎通、協力・調整はなされているか。また兼任教員（非常勤講師）との意思の疎通はなされているか。 授業改善や教員の能力開発のための経費は準備されているか。 授業改善を支援する職員の研修（SD活動等）は、定期的に行われているか。

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育目標にもとづいた教育課程編成の方針の明示。	→教育課程編成の方針の明文化、「要覧」「履修の手引き」への記載、履修指導の説明の時間等の充実	C	C	A	A	
2. 実践力を培うために保育現場と連携した授業実施。	→保育現場と連携した授業内容の検討及び実施状況。	C	B	B	A	
3. 保育職の専門性向上のため、旧教員・卒業生などの積極的活用。	→旧教職員・卒業生などとの連携状況。	C	B	B	A	
4. シラバスの記載内容の充実、不完全シラバスをなくす。	→不完全シラバス数、シラバス記載内容の変更。	C	B	A	A	

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
5. FD検討会の活性化、学外研修などの活用により、現状以上に授業を改善する	→FD検討会の内容、方法の再検討、全国保育士養成協議会主催のセミナーおよび研究大会への積極的な参加、研究発表など	C	C	B	B	
	→					

☆

## 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	履修指導の際に、カリキュラムポリシーについて記載している要覧・履修の手引きを用いて説明し、周知に努めた。
目標2	幼稚園免許取得のためには、15日間の「幼稚園実習」、保育士資格取得のためには、10日間の「施設実習」、20日間の「保育所実習」が必要である。さらにこれらの外部での実習の前に、本学の独自科目である「教育保育参観実習」を半期間にわたり実施している。これらの授業を展開するために幼稚園長や児童福祉施設長などが非常勤講師として担当している。また、保育者としての基礎を獲得し意欲を高めるために、入学後すぐに聖和幼稚園と連携した「基礎演習」の授業をおこない、全員が行事などの手伝いをおとして保育者より直接学ぶなど、保育現場と連携した授業を実施している。
目標3	保育職の専門性向上のために、実習の事前事後指導の授業などでは、現場で活躍している卒業生に話しをしてもらう機会を設けている。また、一部の科目では卒業生が非常勤講師として担当している。
目標4	2013年度のシラバスより記載内容を「授業のテーマ・ねらい」「到達目標」「授業計画」「成績評価基準」「テキスト」「準備学習の内容」と変更した。シラバス作成に向け、教授会であらためてシラバスの目的および変更点について説明し、周知徹底した。
目標5	FD検討会を7月、9月、10月、2月の計4回実施し、ほぼ全員が参加した。内容については、京都FD開発推進センター作成の「FDハンドブック」をテキストに授業方法等について話し合い、また授業評価アンケートの結果の活用やアンケート項目の改善について検討を行った。社団法人全国保育士養成協議会主催のセミナーおよび研究大会で4名が研究発表等を行った。
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	2 教育の実施体制
中項目	
小項目	2.0.1 教員組織等が整備されていること
要素	設置基準の教員数の規定（教授数を含む）を充足しているか。 教員は学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有しているか。 教員の採用、昇任はその選考基準等が整備され適切に行われているか。 教員の年齢構成はバランスが取れているか。 教員は、（a）授業担当、（b）研究活動、（c）学生指導、（d）その他教育研究上の業務に意欲的か。 助手、補助職員等が確保され、教育活動等に機能しているか。 教育実施にあたる責任体制は確保されているか。
小項目	2.0.2 教育環境が整備・活用されていること
要素	保有する校地の面積は設置基準の規定を充足しているか。また校地は教育環境として適切に整備されているか。 保有する校舎の面積は設置基準の規定を充足しているか。また校舎は授業や学生生活のために常に整備され快適な環境となっているか。 それぞれの授業を行うにふさわしい講義室、演習室、実験・実習室を十分に用意しているか。 それぞれの授業を行うにふさわしい情報機器を設置するパソコン教室、マルチメディア教室、LL教室は整備されているか。また学生自習室等は整備されているか。 授業用の機器・備品についてその整備システムが確立しているか。また、それぞれの授業を行うための機器・備品は十分に備わっているか。 保有する校地と校舎は学生や教職員の安全性に配慮しているか。また障害者に対応したものとなっているか。 適切な広さの運動場、体育館を有しているか。
小項目	2.0.3 図書館もしくは学習資源センター等が整備されていること
要素	図書館（以下、学習資源センター等を含む）の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等は、在籍学生数に比し適当か。 図書館の広さは充分であり、その環境は適切に整備されているか。また蔵書数の増加等、将来に備えたものとなっているか。 年間の図書（以下、学術雑誌、AV資料等を含む）購入予算は充分か。また購入図書選定システムや廃棄システムは確立しているか。 図書館には学生が利用できる参考図書、関連図書は十分に備えられているか。 司書数、司書の能力、図書検索システムなどを含む、図書館のサービス体制は充分か。 学生の図書館利用を活発にするための努力は行っているか。 学内外への情報発信、他の図書館との相互利用活動など、図書館活動は活発か。

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育実績、研究業績、社会的活動等短期大学教員として必要な資質の向上	→研究活動、社会的活動に関する報告書提出の徹底および情報公開の実施	C	B	B	A	/
2. 学生の図書館活用能力を向上させ、短期大学図書館の入館者数、貸出冊数を1.5倍にする	→オリエンテーションの実施状況およびアンケート調査結果、入館者数、貸出冊数、ホームページ、OPAC、電子ジャーナルへのアクセス数等	C	B	B	B	/
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

## 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	研究活動については、毎年度始めに、研究課題、研究計画、個人研究費支出計画を記載した「個人研究費研究計画書」を提出することになっている。また前年度の研究については「個人研究費研究経過（成果）報告書」を提出し、研究結果の概要、研究により得られた成果の今後の活用・提供、年度中に補助を受けた研究費、著書、学会発表等、個人研究費支出実績について報告することになっており、2012年度は全教員が計画書および報告書を提出した。社会的活動については、兼業申請や講師派遣依頼状の提出などで把握している。情報公開に関しては、教員の研究活動及び社会活動について、ホームページ上で行っている。
目標2	新入生全員を対象とした館内ツアーや検索演習、2年生を対象としたゼミ単位でのガイダンスなど、各種オリエンテーションを毎年度継続的に実施している。その成果により図書館の利用が定着しつつあり、それは目標として掲げた数字の伸びからも窺える。短期大学生の入館者数は2009年度の4,903人（※）から2012年度の8,205人への1.67倍に、貸出冊数は3,480冊から4,668冊への1.34倍に増加している。このように入館・貸出ともに顕著な伸びを示しており、図書館の利用が浸透してきていると考えられる。 （※）2009年度の入館者数は、年度途中に入館ゲートを設置したため、年間人数に換算したもの。ゲートを設置した8月24日以降の実人数は、2,955人。
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	3 教育目標の達成度と教育の効果
中項目	
小項目	3.0.1 教育目標の達成への努力がみられること
要素	それぞれの授業の単位認定の方法(試験、レポートや制作物の提出等)は適切か。また単位の取得状況は妥当な範囲であり、担当教員による学習評価は適切に行われているか。 担当教員は、授業終了後の学生の満足度に配慮しているか。 退学、休学、留年等の学生の全体の学生に占める状況は妥当な範囲か。またそれらの学生に対するケアは充分か。 資格取得の取組みと実績は充分であるか。 編入学希望に対応しているか。
小項目	3.0.2 学生の卒業後評価への取組みの努力がみられること
要素	専門就職(学習した分野に関連する就職)の割合は充分か。 卒業生の就職先からの評価について意見を聴取しているか。 教育の実績や効果を確認するために卒業生との接触、同窓会との連携等が行われているか。 編入先からの評価について意見を聴取しているか。

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生による授業評価アンケートの内容を再検討し、授業評価方法の改善を行う	→全授業科目の授業評価アンケートの実施、内容の検討状況	C	C	C	B	/
2. 免許・資格を取得するための個別的な指導と支援を強化し、実績を維持する	→希望者の免許・資格取得の割合、ガイダンスの実施(回数及び参加者数)	C	B	A	A	/
3. 卒業生に対する就職先からの評価方法の検討および実施	→評価方法の検討と進捗状況	D	D	C	B	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	全科目について授業評価アンケートを実施した。授業評価アンケートの再検討については、FD検討会でその方法や内容について議論をし、また非常勤講師を含む全教員に対してアンケート調査を実施した。これらの結果をもとに2013年度の授業評価アンケートを作成した。
目標2	2012年度免許・資格取得状況は、卒業生159名中、幼稚園教諭二種免許状154名(96.8%)、保育士資格141名(88.6%)、児童厚生二級指導員資格67名(42.1%)、認定ベビーシッター資格128名(80.5%)であった。履修ガイダンスについては、年度初めのオリエンテーションで全体への履修指導および個別の履修相談の時間を設け、ほぼ全員が参加した。
目標3	卒業生に関する評価や情報について聴取する内容が統一されていないため、聴取項目について検討中である。ただし今年度もキャリアセンター職員による就職先訪問や、教員による実習先訪問時に、卒業生の近況について聴取は行った。また兵庫県や大阪府の幼稚園・保育所・施設などの各種団体と養成校との懇談会にも出席し、情報交換の機会をもっている。編入生の評価については、関西学院大学教育学部と懇談を行い、編入生の成績および進路の状況、今後のシステムのあり方などについて協議した。
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	4 学生支援
中項目	
小項目	4.0.1 入学に関する支援が行われていること
要素	短期大学案内には建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標、望ましい学生像等が明示されているか。 募集要項には入学者選抜の方針、多様な選抜方法（推薦、一般、AO選抜等）が分かりやすく記載されているか。 広報もしくは入試事務の体制が整備され、受験生の問い合わせ等に対して適切に対応できているか。 多様な選抜が公正かつ正確に実施されているか。 入学手続者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供できているか。 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは適切に行われているか。
小項目	4.0.2 学習支援が組織的に行われていること
要素	特に学習の動機づけに焦点をあわせた学習や科目選択のためのガイダンス等が適切に行われているか。 学生便覧等、学習支援のための印刷物が発行されているか。またそれらの印刷物は学生に理解しやすいものとなっているか。 基礎学力が不足する学生に対し、補習授業等の学習支援に対する組織的な取組みに努めているか。 学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制が整備されているか。 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っているか。
小項目	4.0.3 学生生活支援体制が整備されていること
要素	生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）が整備されているか。 クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が活発に行われ支援体制も確立しているか。 休息空間、保健室、学生相談室、食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティへの配慮は充分か。 宿舍が必要な学生に適切な支援（学生寮、宿舍の斡旋等）は行われているか。また通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）は図られているか。 奨学金等、学生への経済的支援のための制度は用意されているか。 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制は整っているか。 学生個々の記録が作成されているか。またその記録は適切に保管されているか。 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めているか。
小項目	4.0.4 進路支援が行われていること
要素	就職支援のための教職員の組織が整備され適切に活動しているか。 就職支援室等が完備され、学生に必要な情報が提供できているか。 就職のための資格取得、就職試験対策などの支援はなされているか。 就職内定率（3/31 現在）は十分な水準か。 その他、進学、留学に対する支援は充分になされているか。
小項目	4.0.5 多様な学生に対する特別な支援が行われていること
要素	留学生の学習（日本語教育等）及び生活を支援する体制は整っているか。 社会人学生の学習を支援する体制は整っているか。 障害者の受入れが可能な施設を整備する等、障害者への支援体制は整っているか。 長期履修生を受入れる体制は整っているか。

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 受験生が理解しやすく魅力を感じる大学案内パンフレット、ホームページ等、広報の検討	→大学案内パンフレット、ホームページの作成に在学生や卒業生の意見、アイデアを取り入れる。	C	B	B	B	
2. 入学までの情報提供および入学前教育の充実	→入学予定者対象パンフレットの再検討、ピアノの実技能力向上のためのプログラムの検討	D	C	B	B	
3. アンケート調査などによる学生生活の現状把握	→在学生を対象として学生生活全般に対するアンケート調査の実施および課題の分析の進捗状況	D	D	B	B	
4. 進路選択時の情報提供を徹底し、アドバイザー制度の活用を推進する	→「進路希望調査カード」の再検討の進捗状況、アドバイザーへの相談および指導内容の分析	C	C	B	B	

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	大学案内パンフレットは学生の視点を重視して作成している。受験生により身近に本学を理解してもらえるように、在学生や卒業生の声などを多く記載し、その意見やアイデアを取り入れるようにしている。ただし、ホームページについてはまだ反映できておらず今後の課題であり、2013年度のホームカミングデーやオープンキャンパスにおいて卒業生や高校生にもアンケート調査を行う予定である。
目標2	入学手続き者に対しては、「入学手続きの手引き」「入学までのご案内」を送付し、オリエンテーションプログラム、奨学金等、授業や学生生活について事前に情報を提供しているが、これらの情報を1冊にまとめた入学予定者対象パンフレットを、次年度に向けて検討中である。また入学前教育については、課題図書による感想文の提出を求め、また漢字検定2級程度の事前学習を促し、入学後にテストを実施する他、全員にピアノについてのアンケートを実施し、それぞれの経験に合わせたアドバイスをを行い、ピアノ経験の少ない者に対してはピアノレッスンを実施して実技能力の向上を図っている。
目標3	学生生活に関して学生の意見や要望を聴取するため、2年間にわたり「短大調査（JJCSS）」を実施した。調査結果については、報告書を作成し、非常勤講師を含む教員全員に配付し説明を行った。引き続き課題の検討を行っている。
目標4	学生の実習の希望把握のため半年ごとに進路希望調査を行っている。また2年の4月には聖和キャンパスキャリアセンター作成の「進路調査票」に記入し、それをもとにアドバイザーとキャリアセンターが進路指導にあたっている。「進路調査票」の記載内容についてはさらなる検討が必要である。2年生アドバイザーは、特に秋学期は情報を密にするためほぼ毎週担当者会を実施し、相談及び指導内容について話し合いを行っている。
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	5 研究
中項目	
小項目	5.0.1 教員の研究活動が展開されていること
要素	教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他）は成果をあげているか。 教員各個人の研究活動の状況が公開されているか。 科学研究費補助金等の申請・採択、研究費の外部からの調達は実績があがっているか。 教員あるいは教員グループの担当授業科目に関する研究や教育実践及びその成果についての報告が奨励されているか。
小項目	5.0.2 研究活動の活性化のための条件整備が行われていること
要素	教員の研究に係る経費の支出は充分か。また研究経費についての規程が整備されているか。 教員の研究成果を発表する機会（研究紀要の発行等）は確保されているか。 教員の研究に係る機器、備品、図書等は充分か。 教員が研究を行うにふさわしい教員室、研究室または研修室が整備されているか。 教員には研究日（研修日）等、教員が研究を行うに十分な時間の確保に配慮がされているか。

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学内研究会活動の推進	→聖和保育教育研究会等の開催状況	C	B	A	A	/
2. 研究紀要の発行（年一回発行）	→研究紀要（聖和論集）の発行状況、発行回数	C	B	A	A	/
3. 科研費等による研究の奨励	→科研費等による研究への応募および採択状況	C	C	B	A	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	聖和保育教育研究会の活動について、2012年度は2012年5月30日に総会、2013年3月5日に研究会を開催した。研究会では3件の研究発表が行われた。またキリスト教教育・保育研究センターでは研究会を4回開催し、研究員の他、短大教員、聖和幼稚園教諭などが参加した。
目標2	研究紀要の発行については、2012年12月22日に聖和論集第40号を発行した。10件（内短期大学教員8）の論文が掲載された。
目標3	科研費等による研究への応募状況および採択状況については、以下の通りである。1. 財団法人こども未来財団平成24年度児童関連サービス調査研究等事業『子育て支援従事者の総合的な研修プログラムに関する調査研究』（分担研究者：千葉武夫、碓氷ゆかり 助成金額 2,000,000円）2. 財団法人日本社会福祉弘済会平成24年度社会福祉助成事業「乳児期における保育園でのかみつき行動の要因分析とその減少対策の取組み」（共同研究実施者：前田佳代子 助成金額 240,000円）。なお、2013年度の科研費は、1件が採択された。
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	6 社会的活動
中項目	
小項目	6.0.1 社会的活動への取組みが推進されていること
要素	社会的活動についての位置づけが明確にされているか。 社会人の受け入れに対して意欲的か。 地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等を実施しているか。 地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体等と効果的な交流活動を行っているか。
小項目	6.0.2 学生の社会的活動を促進していること
要素	ボランティア活動等を通じて地域社会に貢献しているか。 学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）に対して積極的に評価しているか。
小項目	6.0.3 国際交流・協力への取組みの努力がみられること
要素	留学生の受け入れ及び留学生の派遣（長期・短期）に対して意欲的か。 海外教育機関等との密接な双方向的交流を継続しているか。 教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等は活発か。

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 卒業生および保育者を対象とした研修会等の開催	→研修会等の実施状況	C	B	B	A	/
2. 地域の子育て家庭を対象としたオープンセミナー聖和キャンパス講座(幼児教育大学)の開催(教育学部、聖和幼稚園との共催)	→オープンセミナー実施状況	C	B	B	A	/
3. 「関西学院子どもセンター」における発達支援事業、子ども子育て支援事業、おもちゃとえほんのへや事業の充実	→「関西学院子どもセンター」事業の活動状況、学生ボランティアの活動状況	D	C	B	A	/
					★	
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	「聖和短期大学夏の研修会」を2012年9月1日(土)9:10～14:40に実施した。正置友子氏を講師に迎え、「保育における絵本を考える～子どもの成長と絵本～」をテーマに講義と実践を行い、卒業生および近隣の保育者49名が参加した。またキリスト教教育・保育研究センターでは、「現代北欧児童文学における『死』の語り」と題して、大阪大学言語文化研究科教授田辺欧氏が講演し、幼稚園、保育所、教会関係者など78名が参加した。
目標2	オープンセミナーについては、西宮聖和キャンパス講座「音と遊ぼう!～色々な打楽器を使っての音空間創り～」が2012年11月10日に開催され、短期大学教員と幼稚園教諭が講師を担当した。幼児、児童および保護者42名が参加した。
目標3	関西学院子どもセンターの活動状況については、年次報告に記載されているとおりであり、積極的に3つの事業を展開している。2012年度は地域の子ども・子育て支援事業に延べ5名、発達支援事業に延べ9名、おもちゃとえほんのへや事業の地域の子ども対象のおはなし会に延べ13名の本学学生がボランティアとして活動した。
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	7 管理運営
中項目	
小項目	7.0.1 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立していること
要素	学校法人の運営全般に理事長のリーダーシップが適切に発揮されているか。 理事会は寄附行為の規定に基づいて開催され、学校法人の意思決定機関として適切に運営されているか。 監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っているか。 評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催され、理事会の諮問機関として適切に運営されているか。 理事の構成に著しい偏りがないか。
小項目	7.0.2 教授会等の短期大学の運営体制が確立していること
要素	短期大学の運営全般に学長のリーダーシップが適切に発揮されているか。 教授会は学則等の規定に基づいて開催され、短期大学の教育研究上の審議（諮問）機関として適切に運営されているか。 学長もしくは教授会のもとに教育上の委員会等が設置され、規程に基づいて適切に運営されているか。
小項目	7.0.3 事務組織が整備されていること
要素	短期大学の事務部門の規模は適当か。また事務職員の任用は適切に行われているか。 短期大学の事務部門は事務諸規程等を整備し、それらの規程に基づいて適切に業務を行っているか。 事務処理のための事務室、情報機器、施設・備品等は整備されているか。 決裁規程に従って決裁処理が適正に行われているか。また公印や重要書類・データの管理、防災対策、情報システムのセキュリティ対策は適切か。 事務職員及びその組織は学生から支持され信頼されているか。 事務部門にSD活動等を行う組織を設け、日常的に業務の見直しや事務処理の改善に努力しているか。具体的には事務職員の能力開発、事務能力の向上のため内部研修、外部への研修が活発に行われているか。
小項目	7.0.4 人事管理が適切に行われていること
要素	学校法人は教職員の就業に関する規程（就業規則、給与規程等）を整備し、それらを教職員に周知するとともにそれらの規程に基づいて適正に処理しているか。 学校法人（理事長、理事会）と教職員は、互いの立場を尊重しつつ協力する体制が整っているか。 教員と事務職員が互いの立場を尊重しつつ緊密に連携する雰囲気が醸成されているか。 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等は配慮されているか。

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学長、学生主任、教務主任の各業務内容の整理および専決事項の策定。	→学長、学生主任、教務主任の各業務内容の整理、専決事項の検討及び策定状況	C	B	B	A	
2. 電算システム変更に伴う事務処理の効率化および事務体制の再整備。	→電算システム変更に伴う事務体制の再整備による業務軽減の結果、減少する職員の超過勤務時間	C	B	B	B	
3. 執行部と事務室の連携を促進、強化するための学長室会の定期的開催、教員と職員合同の研修会の開催。	→学長室会の開催状況、教員と職員合同の研修会の開催状況	C	B	B	B	
					☆	
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	合併後4年間の業務内容を整理し運営組織の再編成を行い、2013年度より教務委員会、学生委員会、入試・広報委員会が、各委員会規程のもとに運営を開始した。各委員会は毎月1回委員会を開催し、教授会に議案を提出する。
目標2	2012年度より新電算システムを導入し、学生のweb履修登録、教員のweb成績入力等を開始した結果、事務が効率化し業務軽減の方向に進んでいるが、初めての実施に向けて周知徹底を図るため、学生および教員対象の事前説明会や個々の対応などに新たな時間が必要となった。
目標3	学長室会は、学長、学生主任、教務主任、聖和キャンパス事務室課長（短期大学担当）および課長補佐が出席して毎週水曜日に開催し、各業務内容やスケジュール等の確認、各種案件について協議を行っている。2012年度は34回開催した。
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	8 財務
中項目	
小項目	8.0.1 財務運営が適切に行われていること
要素	<p>学校法人及び短期大学は、中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算を、関係部門の意向を集約し、適切な時期に決定しているか。また、決定した事業計画と予算は速やかに関係部門に伝達しているか。</p> <p>年度予算は、適正に執行されているか。日常的な出納業務は円滑に実施され、所管担当責任者を経て理事長に報告されているか。</p> <p>決算終了後の計算書類、財産目録等は、法人の経営状況及び財政状態を適正に表示しているか。これに係る監事の機能は有効に働いているか。また、公認会計士の監査意見への対応は適切か。</p> <p>資産及び資金（有価証券を含む）の管理と運用については、資産等の管理台帳、資金出納簿などに適切な会計処理に基づいて記録され、安全かつ適正に管理されているか。また、寄付金の募集及び学校債の発行は適正か。</p> <p>月次試算表が毎月適時に作成され、財務担当責任者を経て理事長に報告されているか。</p> <p>改正私立学校法の規定に基づき、財務情報を適切に公開しているか。</p>
小項目	8.0.2 財務体質が健全であること
要素	<p>学校法人及び短期大学の経営の状況（資金収支及び消費収支）は、評価を受ける過去3ヶ年にわたり均衡しているか。消費収支計算における収入超過または支出超過の状況について、その理由を把握しているか。</p> <p>学校法人の財政状態（貸借対照表）は健全に推移しているか。短期大学の経営状況が法人の財政にどのような影響を与えているかを把握しているか。</p> <p>短期大学の永続を可能とする学校法人の資金は、健全に維持されているか。余裕資金については、将来計画を見込んで目的別に引当資産化しているか。単に現預金のみを留保資金が集中していないか。</p> <p>短期大学の教育研究経費は、評価を受ける過去3ヶ年の平均が帰属収入の20%程度を超えているか。短期大学に係る教育研究用の施設設備及び学習資源（図書等）についての配分は適切か。</p> <p>財務体質は定員充足率いかににかかっており、過去3ヶ年の平均及び直近年度の充足は妥当か。過去3ヶ年の収容定員充足率に相応した財務体質を維持しているか。</p>
小項目	8.0.3 短期大学に必要な施設設備が整備され、その管理が適切に行われていること
要素	<p>固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等の財務諸規程を含め整備し、施設設備、物品（消耗品、貯蔵品等）を適切に管理しているか。</p> <p>施設設備の維持管理について、火災等災害対策、防犯対策、避難対策に対処した整備及び定期的な点検訓練がなされているか。コンピュータシステムのセキュリティ対策は適切か。</p> <p>施設設備の維持管理において、省エネ・省資源対策、その他地球環境保全の配慮がなされているか。</p>

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 法人全体として強固な財政基盤を確保するため、以下の目標を設定する。 ①帰属収支差額比率：10.5% ②純人件費比率：52.3%（過去5年間平均） ③総人件費比率：56.4%（過去5年間平均） ④教育研究経費比率：33%程度を維持 ⑤寄付金比率：3.0%（2007年度全国平均）を目指す	→①帰属収支差額比率、②純人件費比率、③総人件費比率、④教育研究経費比率、⑤寄付金比率	C	C	C	C	
2. 法人としての新基本構想のビジョン実現および資金の有効活用の視点から内部監査を実施し、業務および会計処理の改善を行う。	→内部監査の結果、指摘・提言に対する改善状況	A	A	A	A	
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	<p>本学では、法人内の学校ごとのセグメント計算書を毎年の予算・決算時に作成し、収支状況を適宜把握するよう努めている。各部門の収支については、独立採算制を採っているわけではないので、支出超過部門についても、原則的にはオール関西学院で支えあう体制となっている。しかし、昨今では保証人をはじめとする学院関係者への説明責任を果たす上で、法人として、学校ごとの収支改善に向けた方策を考えると同時に、当該部門に対しても収支改善に向けた取り組みをおこなうよう勧告している。</p> <p>2010年度に財務・業務改革本部において、強固な財務基盤の確立のため、実現可能性のある健全な財務評価指標（目標値）を次のとおり設定した（当財務指標については、2009年度に設定したものから、実現可能性のある健全な財務評価指標に再設定した）。</p> <p>①帰属収支差額比率：8.0%以上          ②純人件費比率：54.7%（消費収支計算における帰属収入に占める人件費の割合）          ③総人件費比率：59.0%（消費収支計算における帰属収入に占める人件費および業務委託費の割合）          ④教育研究経費比率：33.0%          ⑤寄付金比率：3.0%</p> <p>2012年度の帰属収支差額比率は、12.0%となり、前年度の12.9%（単年度の特殊要因である退職給与引当金特別繰入額を除いた数値）に引き続き、目標を上回った。寄付金比率は1.6%と目標を下回っているが、今後は2014年度までの創立125周年記念事業の実施にあわせて、より一層、募金活動を促進し、収入増を目指す。</p> <p>支出面では、2012年度の純人件費比率は52.4%、総人件費比率は58.5%と目標内に収まっている。教育研究経費比率については、新中期計画（※）実施に伴う経費増を見込んで2009年度以降、経費削減に取り組んできたが、2012年度は新中期計画での経費が想定を下回っていたため、同比率は31.6%となり目標を下回った。今後、新中期計画のすべての施策を実施するときには改善すると見込んでいる。</p> <p>※新中期計画：関西学院では、2009年度に10年間（2009-2018年度）の到達目標である6つのビジョンを掲げた「新基本構想」を定め、その実現に向けた5年間の新中期計画（前期2009-2013年度）を策定した。</p>
目標2	<p>2012年度の内部監査については、6部局を対象とした部局ごとの業務・会計監査、12事業計画を対象に事業の評価・検証および科学研究費補助金・受託研究費事業の監査を実施した。各部局からは個人研究費の取扱の文書化、予算執行の適正化、大学院生、児童・生徒の入学定員確保、貸与奨学金返還滞納者への対応等について改善に向けての回答があった。</p>
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	9 改革・改善
中項目	
小項目	9.0.1 自己点検・評価活動の実施体制が確立していること
要素	自己点検・評価のための規程及び組織を整備し、定期的に自己点検・評価を行っているか。 定期的に自己点検・評価報告書が公表されているか。
小項目	9.0.2 改革・改善のためのシステム構築への努力がみられること
要素	自己点検・評価活動には出来るだけ多くの教職員が関与するよう配慮されているか。 自己点検・評価の成果を出来るだけ活用するよう配慮しているか。
小項目	9.0.3 相互評価（独自に行う外部評価を含む。以下、評価の観点も同じ）への取組みに努力していること
要素	前の第三者評価から今回までの間に相互評価を実施したか。 相互評価のための規程及び組織を整備し、定期的に相互評価を行っているか。 相互評価の成果を出来るだけ活用するよう配慮しているか。

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 毎年の自己点検・評価の実施	→目標、指標の設定。毎年の自己点検・評価報告書の作成。2013年度の認証評価報告書作成。	C	B	B	A	
2. 専門領域を同じくする松山東雲短期大学との相互評価の継続と結果の活用	→定期的な検討会の実施状況。検討の進捗状況。報告書作成。	C	B	B	A	
		★				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	関西学院の自己点検・評価制度の下、今年度も自己点検・評価を実施した。短期大学自己評価委員会を中心に2012年度聖和短期大学自己点検・評価実施要領に基づいて進捗状況報告シートを作成し、評価専門委員会による評価（学内第三者評価）を受け、評価結果をホームページ上で公表した。短期大学基準協会による2014年度認証評価受審に向けて2月末に自己点検・評価報告書作成委員会を立ち上げ、全教職員で取り組むための組織を整えた。
目標2	2013年3月22日に松山東雲短期大学より保育科科长をはじめ4名が本学の評価を行うために来校。質疑応答および施設見学などを行った。評価結果については、後日、報告書が提出される予定である。
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	10 キリスト教主義教育
中項目	
小項目	10.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。
要素	
小項目	10.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。
要素	(KG1)方針、実施内容

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. オリエンテーション、授業、学校礼拝、諸行事等によるキリスト教主義教育の実践	→オリエンテーション、授業、学校礼拝、諸行事等の実施状況。	C	B	A	A	
2. 教職員に対する研修会の開催。学校礼拝、諸行事などへの積極的な参加。	→研修会の実施状況、学校礼拝、諸行事への参加状況。	D	C	B	A	
					☆	
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2012年度は4月4日に新生対象のオリエンテーション礼拝を行った。「キリスト教学」(1年)「キリスト教保育」(2年)などの科目を必修科目とし、教育課程に位置づけている。学校礼拝は原則として授業日は毎日行い、木曜日は50分間のロングチャペルを実施している。またイースター、ペンテコステ、収穫感謝、クリスマスなどの特別礼拝の他に、学院内外のゲストを招いて多様な礼拝を実施することができた。特に月曜日の礼拝では、司会、聖書朗読、奏楽を学生が担当するなど学生が礼拝に参加する機会が増えている。
目標2	キリスト教主義教育に関する研修会の実施については、キリスト教学校教育同盟大学部会の研修会およびキリスト教教育・保育研究センターの開催する公開講座や研究会に参加した。 学校礼拝、諸行事への教職員の参加については、教授会毎に宗教主事より礼拝等の案内や報告が行われていることもあり、教員の礼拝運営への協力が進んでいる。特に月曜礼拝は各ゼミ・アドバイザークラスが司会、聖書朗読、奏楽を担当している。またクリスマス礼拝は、教員全員が歌や演奏などを担当し、全学年の学生とともに礼拝を守ることができた。
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	11 人権教育・人権問題
中項目	
小項目	11.0.1 人権教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。
要素	(KG1)方針、実施内容 (KG2)人権意識の涵養とその現状
小項目	11.0.2 人権問題への対応を適切に行っているか。
要素	(KG1)ハラスメント防止のための措置の適切性 (KG2)セクシャル・ハラスメント防止への対応 (KG3)アカデミック・ハラスメント防止への対応 (KG4)その他ハラスメント防止への対応 (KG5)人権侵害の防止とその対応

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 人権に関するオリエンテーションおよびパンフレットの充実	→オリエンテーションの実施状況およびパンフレットの検討の進捗状況。	C	B	B	B	/
2. 保育者としての人権意識を涵養するための教育の検討	→人権関連科目の履修状況、授業内容の検討状況。	C	C	B	A	/
3. ハラスメントに関する相談ルートの整備および周知徹底。	→ハラスメントに関する相談ルートの整備状況および学生への周知。	C	B	A	A	/
4. 教職員の人権関連研修会への積極的参加	→研修会への参加状況	C	C	B	B	/
					☆	
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	あらゆる人権侵害をゆるさない保育者になることをめざし、新入生オリエンテーション、アドバイザーアワー(学生生活全般について相談・助言をしたり、学生相互が交流する場として活用)、「子どもと人権」の授業、学校礼拝をとおして学生の人権意識の啓発に取り組んでいる。パンフレットは作成できていないが、入学時に配付する「要覧」にキャンパスハラスメントについて記載している。
目標2	免許・資格取得には「子どもと人権」が必修科目となっているためほぼ全員が履修をしているほか、保育者養成に関する科目には人権に係る内容を含んだものが多く、学生たちは各教科内容をとおして人権について具体的に学んでいる。また入学前教育のひとつとして「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」を読んで感想文を提出するなど、入学前より人権意識を高めるよう努めている。
目標3	ハラスメントに関する相談ルートを作成し、2名の人権相談担当者が対応している。学生に対しては、「要覧」にキャンパス・ハラスメントの防止と被害を受けた場合の相談ルート等を記載し、新入生オリエンテーションにおいて説明を行っている。相談ルートについては常時掲示もしている。ホームページでの公表について、検討中である。
目標4	短大教職員対象の人権研修会「福島原発100kmの地で生きる」(講師:会津放射能情報センター・福島の子どもたちを放射能から守る会代表片岡輝美)を開催した。講師の都合に合わせた開催日程となったため、出席できない教職員がいたことが反省点である。
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	12 ボランティア活動・教育
中項目	
小項目	12.0.1 ボランティア活動・教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。
要素	(KG1)方針、実施内容
	(KG2)ボランティア活動実践への対応
	(KG3)ボランティア活動に関する課題の把握
	(KG4)ボランティア教育の現状

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. ボランティア活動の意義についてのしおりの作成と活用	→しおりの内容の検討と作成。配付。	D	C	B	A	
2. ボランティア活動実施のための情報提供、支援体制の整備	→学生のボランティア活動への参加状況、情報提供の件数。	D	C	B	A	
					☆	

  

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	昨年作成した「ボランティアのしおり」を今年度も配付し、特に新入生オリエンテーションにおいてボランティアの意義や諸注意などについて説明を行った。
目標2	学生のボランティア活動状況については、聖和幼稚園の預かり保育に延べ87名、同園で実施している病弱児保育に延べ11名、関西学院子どもセンターの発達支援事業に延べ9名、子ども・子育て支援事業に延べ5名、おもちゃとえほんのへや事業(おはなし会)に延べ13名、西宮YMCAの発達障がい児の「ことば」のプログラムに延べ18名などが参加している。またその他単発の行事などへも参加している。情報提供については、聖和キャンパス事務室が管轄するボランティア募集掲示板にて知らせている。また幼稚園や保育所、施設等でのボランティアについては、キャリアセンターや実習支援室をとおして募集を行うこともある。
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	13 国際交流
中項目	
小項目	13.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	13.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性
小項目	13.0.3 国際教育・協力を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際理解のための教育 (KG2) 国際協力の実践

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 短期大学における国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の明確化	→国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の策定	D	D	D	D	/
2. グローバル化した阪神間の地域特性に合わせた国際感覚やコミュニケーション能力をもった保育者を育てるための教育の推進	→国際理解に関連する授業、学校礼拝、その他のプログラムの実施状況	D	D	C	C	/
					☆	

  

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針はまだ策定できていない。短期大学の国際化への対応と国際交流の推進について早急に学院と相談し、検討したい。
目標2	免許・資格関係科目で過密化しているカリキュラム編成上、国際理解に関する科目を単独で設置することは非常に困難であるため、たとえば「キリスト教保育Ⅰ」など既存の授業の中で、ネパールからの研修生を支援しているPHD協会より研修生と職員を招いて講演を行ったり、学校礼拝で海外ボランティア経験のある卒業生に体験談を話してもらったりなど、学生の国際理解につながる機会を積極的に設けている。海外研修旅行についてはプログラム提供に向けて検討しているが、実習等との関係でスケジュール調整が難しく、実現に至っていない。外国籍の人とのコミュニケーション能力を持った保育者を育てるための教育内容と合わせ、さらに検討を進めたい。
備考	

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・聖和短期大学)

聖和短期大学は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	14 危機管理
中項目	
小項目	14.0.1 危機管理の体制を適切に整備しているか。
要素	

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 短期大学が管理すべき危機の整理、検討および危機管理の基本方針、体制の確立	→危機管理基本方針の策定および実施マニュアルの作成の実施状況	C	B	B	B	/
2. 全構成員の危機管理意識向上のための研修会および避難訓練等の開催	→研修会および避難訓練等の実施状況	D	D	C	C	/

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	学内での緊急時の避難や非常時の通報方法、AEDの設置場所等については、学生に配付する「要覧」に記載し、オリエンテーション等で説明をしており、また急病や事故については救急マニュアル(西宮聖和キャンパス版)を事務室に設置して対応するなど、短期大学が管理すべき危機の整理は順次行っているが、西宮聖和キャンパス全体で検討すべき危機管理、特にすべての災害に対応可能なマニュアルが作成できていない。
目標2	西宮聖和キャンパス全体の避難訓練については、2012年度は実施できなかったが、2013年度に実施予定である。
備考	